

後期定例文連総会を開催し、学生部の屋外新歓ブースの禁止決定に反対する2024年度前期サークル活動方針を確立！

屋外新歓ブースの禁止決定に抗議する要求書ならびに金沢大学共通教育
学生自治会、愛知大学学生への連帯アピールを全体で確認！

新たな執行部体制を確立し、文連委員長に神原拓洋さんを選出！

文化団体連合会は2月1日、2023年度後期定例文連総会を開催しました。今秋冬期の文化・サークル活動の前進を振り返り、当局・学生部による屋外新歓ブースの禁止決定に反対することを緊急の課題とする2024年度前期文化・サークル活動方針を盛り込んだ常任委員会提出の議案を、賛成10 反対0 保留0 の満場一致で採択しました。確立した24年度前期サークル活動の方針を責任をもって遂行する3名の常任委員を選出し、新たな執行部体制を確立しました。来年度文連委員長に神原拓洋さん（教育・4年）を選出しました。

今秋冬期の文化・サークル活動の着実な前進を報告しあう

はじめに文連加盟サークルの幹事は、今秋冬期に協力して文化・サークル活動を前進させてきたことを報告しあいました。昨年4月に学生部の感染対策を理由としたサークル活動規制を撤廃させたことにふまえ、日々の練習や稽古、ミーティングや部会を着実に推進してきたこと。その成果を1年間の集大成として公演や演奏会、発表会に結実させたこと…伝統ある早稲田サークル文化の灯を営々と守り抜いてきた幹事の誇りに満ちた報告を参加者は熱心に聞き、来年度も文化・サークル活動を活発に前進させていく意欲をわかれました。そのために、サークルどうしが協力し4月のサークル新歓活動をぜひとも成功させていこうと、思いを強くしました。

学生部の1・26屋外新歓ブースの禁止決定に対して怒りの声が噴出！

続いて文連加盟サークルの幹事は2024年度前期の文化・サークル活動方針をめぐって討論しました。とくに当局・学生部が1/26に「新9号館の工事」を理由に屋外新歓ブースの禁止を決定したことに対して、討論は白熱しました。

神原文連委員長ははじめに「屋外の新歓ブースを一切なくし、ブースの設置を10号館だけにしか認めない学生部の決定によって、ブースを獲得できないサークルが多数出ることには明らかだ。ブースは対面で新入生を勧誘するために絶対に必要で、「新9号館の工事」を理由に全てのサークルにブースが保障されないのはおかしい。サークルの実情を全く顧みず一方的に決めたことも問題だ」と批判しました。これに呼応してサークル幹事から次々と意見が出されました。昨年、屋外のブースで新歓活動を行なった幹事は「最初から興味があった新入生だけでなく、興味がなかった新入生や周りのブースで勧誘していた上級生にも関心をもっても



昨年4月、サークルの新歓活動でにぎわう大隈銅像前



らった。作品をその場で観てもらって入会してくれた人もいたのすごく良かった」と語りました。続いて屋内のブースで新歓した幹事は「昨年は10号館の教室で落ち着いて新入生と話すことができ良かった。今年抽選で落選したらその場でサークルの魅力を伝えることが難しくなり、新歓企画の宣伝もできなくなる」と述べました。ブースの意義を語る幹事の切実な意見を受け、他の幹事からは「昨年11月に常任委員会は新9号館の工事に際してすでにサークル新歓の保障を求めている。サークルの声を生活課はふみにじっている」「自分がブースをもらえても、他のサークルが抽選にもれてもらえなくなるのは不平等で、「9号館の工事」を理由に一切の屋外ブースをなくすのは納得がいかない」「これまでの新歓で学生の会がブースをもらえなかったことは一度もなく、今回の決定は不当だ。以前3号館の工事があった時はブースは普通に出せていたようだから、「9号館の工事を」理由にするのはどうみてもおかしい」と怒りの声が続々とあがりました。

こうした怒りの声を受けてさらに幹事が「みんなの話を聞いて、ブースなしの新歓はサークルの存続にも直結する問題だと強く思った。このまま黙ってはいけない、文連加盟サークルが団結して声をあげるべきだ」と訴えると、他の幹事も呼応して「新歓がこれまでやってきたように自由にできないのはおかしい!」「予め興味がある新入生以外にも興味をもってもらえる、そんな偶然の出会いがあるのがブースのいいところなのだからなくしてはいけない」と怒りの発言がとまりませんでした。

討論ではさらに、これまで先輩から代々受け継いできたサークルの伝統や魅力を守り抜いてきたことの自負と誇りがサークル幹事から次々に語られ、大いに盛りあがりました。“長きにわたり継承してきたサークルの伝統や歴史をこれから

も守り発展させていきたい。——こうしたサークル幹事の誇りや思いを全く顧みることなく、サークルが団結してかちとってきた新歓活動の諸権利を真っ向から否定する学生部の今回の決定への怒りはますます高まったのです。この討論にもとづき、学生部の屋外新歓ブースの禁止決定に抗議し・新歓ブースの増設を求める要求書を提出することを全体で意志一致しました。

全国の学生と連帯することを確認！

次に、新歓をめぐる討論を受けて研究サークルの幹事からは、政府・愛知大学当局による愛大生3名の「退学処分」と愛大自治会・サークルつぶしに抗してたたかう愛大生の闘いを紹介してもらいました。昨年11月、愛大生はただちに文化連の緊急総会を開催し「自治会・サークルつぶし反対」「鍵のつけ替え反対」の決議をあげ反撃のたたかいを巻き起こしてきたことについて、幹事は次のように語りました。「学生やサークルが自らの権利を踏みにじられた時、諦めるのではなく団結して声をあげることを私は教えてもらった。早大生も愛大生のたたかいに学んでいくべきだと思う。早稲田唯一のサークル連合体・文連のもとにサークルが団結することがとても大切だ」…この発言を受けて、文連加盟サークルから愛大生への連帯アピールを発することを全体で確認しました。

さらに神原委員長は、今年元日に起きた能登半島地震に際して、義援金の募金や救援物資の寄付など被災者を全力で支援する金沢大学共通教育学生自治会と連帯し、早稲田のサークルからも被災者を全力で支援していこうと呼びかけました。このことについても、金沢大学共通教育学生自治会への連帯アピールを発していくことを全体で意志一致しました。

以上の討論に加えて、来年度も文化・サークル活動を前進させていくため、サークル補助金の大幅増額を求めること、学費超大幅値上げに反対すること、サークル活動施設の改修・修繕を求めること、「言論・表現の自由」「平和主義」を否定する岸田政権の憲法改悪に反対していくことを全体で討論しました。

以上の討論にもとづき、文連加盟サークルは常任委員会提出の議案を満場一致で採択しました。そして学生部の屋外新歓ブースの禁止決定に抗議する要求書と2つの連帯アピールを確認して総会を終えました。このことにふまえ、常任委員会は来るサークル新歓活動を成功させるために、全てのサークルの先頭で奮闘します。サークルのみなさん、ともに頑張りましょう！（2月15日）